m

音楽教育における協調学習の導入と共創能力の育成に関する研究

柴田学園大学　こども発達学科　　一戸　智之

顔写真等
（希望者のみ）

TEL　0172-33-2289　　FAX　0172-33-2486

t-ichinohe@shibata.ac.jp

キーワード	音楽科教育、ピアノ（演奏法、伴奏法、指導法）、弾き歌い、令和の日本型学校教育、協調学習、芸術教育、ピアノ学修プログラム、アンサンブル

【研究目的と概要】

これまで、人間・音楽・教育の根源的な関連性を探究すべく、ピアノ演奏法、特にベートーヴェンの楽曲分析、音楽科の授業改善に関する研究を推進してきました。現在は、協調学習の導入によりピアノの基礎技能修得と、学修者間の「共創能力」の向上を両立させる、新たなピアノ学修プログラムの開発に取り組んでいます。

１８世紀初頭に発明されたピアノは、その汎用性と利便性から、演奏の場のみならず教育現場においても不可欠な楽器として広く活用されてきました。このため、音楽教育においてピアノ技能は極めて重要な要素と見なされています。しかし、教員養成課程では、専門的な芸術系大学とは異なり、演奏技能の修得と教育者としての資質養成という二つの側面が同時に求められるという特有の課題があります。この課題を克服する効果的な学修方法として、「協調学習」が注目されています。

ピアノ学修に協調学習を導入することにより、学修者は相互に作用し合いながら音楽的知識や技能を体系的に深めることができます。各自の考えを言語化し、共有・比較検討するプロセスを通じて、主体的かつ創造的な学修活動へと発展させることが可能となります。そして、学修者一人ひとりが自らの学びに責任を持つことで、グループ全体および個々の課題を乗り越え、より質の高い音楽的表現や深い楽曲理解へと到達することが期待されます。

すなわち、従来の個人指導が中心であったピアノ実技教育のあり方を、学修者間の相互作用を軸とする協調学習へと転換することにより、以下の教育効果が見込まれます。

- 他者との相互作用による学修意欲の向上
- アンサンブル活動を通じた主体的学修態度の醸成
- 言語化による音楽的理解の深化（他者への説明による自己理解の促進）
- 多様な解釈や練習方法への気づき

【期待される波及効果】

令和の日本型学校教育において求められる資質・能力を、音楽科教育のピアノ実技の授業実践を通じて育成します。単なるピアノ技能の向上に留まらず、多様な社会的要請に応えうる新たな指導モデルを構築・提案し、その汎用化を促進することで、次代を担う以下のような資質・能力を持つ人材の育成に貢献します。

- 協働体制で課題解決を遂行する能力
- 多様な意見を統合し、課題解決の糸口を見出す能力
- 課題解決に向けた、粘り強い探究心と継続的な実践力